

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 茨城キリスト教学園中学校高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒319-1295

茨城県日立市大みか町6-11-1

E-mail ich-web@icc.ac.jp

Website http://www.icc.ac.jp/ich/

幼児児童生徒数 男子408名 女子687名 合計1095名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本学園の教育方針は、「心豊かで、実力のある、自立した国際人の育成」「世界の一員であることを認識し、自国および他国を愛し、人類の福祉と世界の平和を希求する生徒の育成」を目標として掲げている。ESDの実践を通して、世界で活躍できる次代を担うグローバル・リーダーの育成を目標とした。

具体的には、「国際人としての能力の育成」「国際人としての人格形成」を柱に、

①国際理解教育、②英語力育成、③人権・平和教育を行った。

①国際理解教育

本校は開校以来、長期および短期留学生を派遣、受け入れをしている。今年度は、ユネスコスクールに加盟したこともあり、例年より多く受け入れた。姉妹校、地域からの依頼もあり、年間を通して、中高あわせて52人の留学生(引率者を含む)を受け入れた。また、ドイツからの少年合唱団のホームステイを引き受けた。フランスから長期の留学生も受け入れ、すべてのクラスで、留学生を受け入れ、国際交流を図った。

派遣に関しては、姉妹校、提携大学へ中高あわせて84人が参加した。また、

1年間の長期留学の生徒も1人いる。

また、国際理解教育の一環として、本大学に留学に来ている留学生をまねき、4か国、計5回の講演会を行った。

例年実施している国際教育部主催による国際理解講演会も行った。

さらには、地域の国際理解教育のため、本校教員が講演会を行った。

その他、JICA主催のプログラムにも積極的に参加した。

②英語力育成

国際理解の手段として、コミュニケーション能力は不可欠であり、語学力の向上に努めた。

その手段として、「平成29年度高校生英語実践力向上事業」「英語ディベート研修会」「英語インタラクティブフォーラム」「各種英語コンテスト」へ積極的に参加し、校内においても、「英語プレゼンテーション発表会」「英語暗唱大会」など、全生徒が取り組んだ。

また、英語の民間試験も奨励し、検定資格の取得は、例年よりも多かった。

③人権・平和教育

国際人としての人格形成のため、ボランティア活動なども積極的に呼びかけた。「老人ホーム訪問」「特別支援学校ボランティア」「認定こども園でのボランティア」「被災地訪問」などは年間を通して、継続的に行った。

また、「絵本を届ける運動」や「ユネスコ寺子屋運動」など、外部機関主催のものにも、全校をあげて参加した。

その他、挨拶運動や地元の祭りでのボランティアなど、地域振興にも努めた。

① の写真



② の写真



③ の写真



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述:全校集会等)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (Web サイト)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマに掲げ、主体的に考え、他者と協働しながら新たな価値の創造に挑むとともに、新たな問題の発見・解決に取り組むことを重視し、モデルクラスを作り、タブレットを利用した授業を展開した。アクティブラーニングにも取り組み、試行錯誤を繰り返し、次年度以降は全員にタブレットを持たせ、シラバスに ICT 教育への取組を入れるなど、ESD を意識した取組を行った。また、探究活動（課題研究）を希望者に実施し、次年度以降は、特定のクラス全員に課題研究を課し、新学習指導要領、ESD を関連させたカリキュラムを作成する予定である。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクールとして、ユネスコ委員会を今年度組織し、国際教育部、英語科、インターアクトクラブ、JRC 部、生徒会などと連携し、単年度ではなく、継続して取り組める体制を確立した。また、ユネスコスクールの一員として、生徒たちに積極的に取り組めるよう広報活動にも力を入れた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールに認定されたこともあり、国際理解、ボランティア等に参加する生徒の数は著しく増加した。課題としては、いろいろな場面において、参加者が多くなりすぎたため、活動制限をしなければならない状態になってしまった。今後は、活動内容の精選を考えなければならない。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ユネスコスクールに認定されたことを市長に報告に行き、新聞等にも紹介された。

発信方法はホームページ等を利用する予定だったが、ホームページのリニューアルが遅れたために、今年度は、掲載することが出来なかった。しかし、次年度、リニューアル後は、積極的に外部へ発信していきたいと考えている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

本学園の大学や近隣の大学が主催する文化交流会に積極的に参加した。また、ジオパークや地域のユネスコ協会の方々と、今後の活動について話し合いをした。

また、今後は、多くの団体と交流をしていきたいと考えている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

本学園には、マダカスカル出身の教員がおり、まず初めに、マダカスカルのユネスコスクールとの交流を考えている。

また、課題研究を通して、国内外の学校と交流していきたい。

少なくとも、1校とは交流の機会を考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

前述したとおり、ユネスコスクールに認定されたこともあり、国際理解、ボランティア等積極的に参加する生徒が増えた。また、管理職も積極的に取り組みを推奨した。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

ESD を実現すべく、ICT 教育への取組（電子黒板・タブレットの導入）、選択クラスにおける課題研究の必須化が大きな変革である。

これまでの取組に関しては、今まで以上に積極的に呼びかけ、より密度の濃い充実したものになるように取り組む予定だ。

また、新たな試みとして、国際理解教育のための特別課外や海外との新たな交流、環境や防災、地域文化の継承など、今現在、地域社会での問題点を考えるための講演会を年 8 回企画している。

ESD の拠点として、本校の取組をホームページ等で発信していきたいと考えている。特に、次年度 1 年をかけて、生徒の課題研究を 1 冊の冊子にまとめ、地域の学校への配付も考えている。

最後に、今年度は他のユネスコスクールと交流が出来なかったが、次年度はぜひ交流をしていきたいと考えている。